

【国語／スピーチ】

～ClassPad.net のテキストふせん・録音ふせんを活用する～

自分のスピーチを俯瞰し、聞き手を意識した効果的な原稿作成を目指す授業
スピーチをするにあたり、アイデア出しから原稿作成まで多角的な視点で検討を重ねる。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：スピーチ原稿のアイデア出しから原稿作成まで、ClassPad.net の各機能を活用して俯瞰的に検討させ、より聞き手を意識した原稿作成をさせる。

生徒向けの目標：スピーチをするにあたって、原稿作成の段階から客観的な視点を持って検討を重ねることで、スピーチという特性を生かした効果的な原稿を作る。

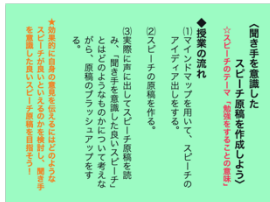
【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・ **プリント削減** ：アイデア出しのメモから原稿作成まで、全てデジタルノートやふせんの各種機能で簡潔させることができる。
- ・ **探求学習促進** ：ふせんの色分けや録音といった様々な機能を活用することで、多角的な視点での原稿作成を促進することができる。
- ・ **授業準備の時短／効率化** ：ふせんの送受信機能を用いることで、効率的でスムーズな授業展開が見込め、実際の活動の時間を増やすことができる。

授業の流れ

ClassPad.net での操作

step1



概要の説明

授業にて、「勉強をすることの意味」というテーマで1分間のスピーチを行う。
そのために本授業では、「スピーチのアイデア出し → スピーチ原稿づくり → スピーチ練習と原稿のブラッシュアップ」という流れで活動を行うことを伝える。
その上で、この活動によって、自分の伝えたいことをスピーチという手段の特性を活かしてよりよく伝えることを目指す、という活動の意図を伝える。

step2

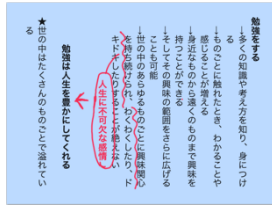


アイデア出し①

「勉強をすることの意味」というテーマに沿って、マインドマップを用いて、スピーチで話す内容のアイデア出しをさせる。

手描き機能を用いて、デジタルノートに直接、アイデア出しのマインドマップを書く。

step3

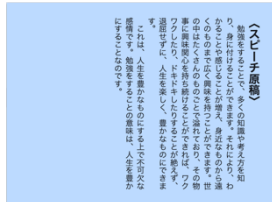


アイデア出し②

マインドマップ上にスピーチに使えるまとまりが出来上がったら、それを用いたスピーチ案のメモを作成させる。スピーチ案が複数出来上がったら、それらを見比べて、実際にスピーチする内容を決めさせる。

スピーチ案のメモは色付きのテキストふせんにまとめ、その案に用いたマップ上のまとまりの近くに配しておく。複数のスピーチ案が挙がる際は、ふせんで色分けをさせる。

step4

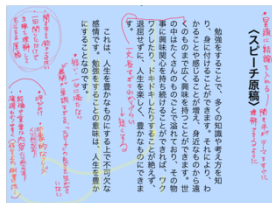


スピーチ原稿作り

step2 で作成したスピーチ案をもとに、スピーチの原稿を作成させる。

スピーチ原稿の作成には、テキストふせんを使用させる。

step5

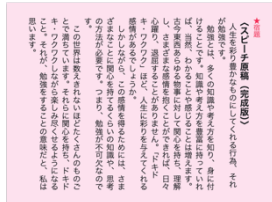


原稿のブラッシュアップ

step4 で作成した原稿をもとに、実際に原稿を声に出して読み、それを録音し、自分自身で聞くよう指示する。それを通じて、「聞き手を意識した良いスピーチ」とはどのようなものかについて考えながら、原稿をブラッシュアップさせる。

時間を計ったり、スピーチの展開を俯瞰的に捉えて聞き手を意識した原稿作りができているかを確認したりするために、録音ふせんを用いる。自身のスピーチを収録した録音ふせんに参考し、原稿を再構成・ブラッシュアップさせていく。このとき、読むときに意識したいこともふせんに書き込んでいき、実際のスピーチを意識した原稿にしていく。

step6

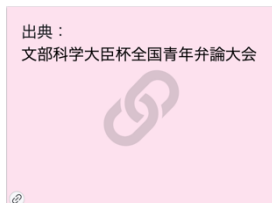


まとめ・宿題

授業内容を振り返り、原稿を完成させてくることを宿題として課す。また、次回の授業ではペアでのスピーチ練習を行い、「聞き手を意識した良いスピーチ」についてさらに検討を重ねることを伝え、その活動のために、ペアを組んだ生徒に原稿を送っておくことを伝える。

スピーチ原稿の完成版のテキストふせんは、課題として回収する。また、授業支援機能を用いて、ペアを組んだ生徒にも原稿のふせんを送っておき、次の授業での活動がスムーズに始められるようにする。

step7



参考・補足

原稿作りや話し方の参考になるような、優秀なスピーチの例を参考として提示する。

文部科学大臣杯全国青年弁論大会 (<https://benron.jp/>) にて公開されているスピーチ動画、原稿などをリンクふせんに用意して、授業支援機能で共有する。